

今週（11月2日から11月6日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、一部でレートを引き下げる動きが見られたものの、全体的には地銀業態を中心に堅調な資金調達意欲が見られた。無担保コールO/N加重平均レートは、週を通して大きな変動は無く、概ね▲0.03%程度での推移となった。ターム物は、1~2W物を中心に▲0.02%前後の水準で引き合いが見られた。日銀当座預金残高は2日に2Y債の発行などの要因で減少したあとは、小幅の増減となり、週を通して486兆円前後で推移した。

●レポ市場

今週のO/N GCは週を通して業者・投資家ともに資金調達ニーズが薄く、▲0.10%前後の水準での出会いとなった。週初2日のT/Nは▲0.10~▲0.095%、4日は短国買入オペがオファーされたことでレートを下げ、▲0.115~▲0.095%の出会い。5日は▲0.105~▲0.095%での出会い。6日は短国3Mの発行日となったことでレートは若干上昇し、▲0.095~▲0.085%の出会いとなった。

SCについてはビッドが目立った銘柄は5y140~145、10y354~360、20y169~174、30y64~66、40y13にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、需給が若干改善したことが確認される展開となった。短国買入オペが15,000億円のオファーにとどまったものの、しっかりした結果となり、3M物は▲0.090%台での出会いと堅調に推移した。6M物は▲0.103%程度、1Y物は▲0.135%程度と前週と同水準での推移となった。

4日に実施された短国買入オペは15,000億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.000%、按分落札利回較差▲0.004%と、しっかりした結果となった。

6日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.085%で出合う中、平均落札利回▲0.0878%、按分落札利回▲0.0837%と、しっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.100~▲0.0975%出合いと、堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、発行案件が少なく、輸送機器、その他金融業態で大型案件が見られた程度であった。償還総額1,200億円程度に対して、発行総額1,800億円程度と発行超のマーケットとなった。また、新型コロナウイルスの拡大を警戒した企業の予防的な調達が一巡した影響からか、償還が到来してもCPでの調達を継続しない発行体も散見された。市場発行残高は週を通して24兆円台前半と引き続き高水準での推移となっているが、月初ということもあって発行量が少なく、発行残高は伸び悩んでいる。発行レートについては、CP等買入オペ見合いや新型コロナ金融支援オペの担保確保の買いニーズからか、対象となる銘柄についてはその大半がマイナス圏で推移している。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/2 (月)	23,295.48	0.040	104.74	△ 0.030	△ 0.090	4,868,100
11/3 (火)						
11/4 (水)	23,695.23	0.035	104.90	△ 0.032	△ 0.108	4,857,700
11/5 (木)	24,105.28	0.015	104.28	△ 0.031	△ 0.102	4,851,600
11/6 (金)	24,325.23	0.015	103.69	△ 0.029	△ 0.090	4,859,600

来週（11月9日から11月13日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
11/9 (月)	決定会合における主な意見(10月28・29日分 8:50) 10月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 9月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 38,000億円 11/10発行		
11/10 (火)	9月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 9月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 10月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	30Y 9,000億円 11/11発行		
11/11 (水)	10月のマネーストック(日銀 8:50)	交付税借入 11,000億円 11/19借入		New York祝日(Veterans Day)
11/12 (木)	長野県金融経済懇談会において安達審議委員講演 9月の機械受注統計(内閣府 8:50) 10月の企業物価指数(日銀 8:50) 9月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	5Y 25,000億円 11/13発行		10月の米財政収支 10月の米消費者物価指数 7-9月期の英GDP速報値
11/13 (金)		TB3M 75,500億円 11/16発行	エネルギー 対策借入 6,500億円 11/20借入	10月の米生産者物価指数 11月のミンガン大消費者信頼感指数速報 7-9月期のユーロ圏GDP2次速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/9 (月)	700	▲ 20,500	▲ 19,800	CP買入 社債買入 国債補完	▲ 100 700	 3,000	3,600	▲ 16,200	TB3M発行▲75500償還56500 10Y物価連動発行▲2000 交付税借入▲11000償還11000
11/10 (火)	1,000	▲ 20,000	▲ 19,000				0	▲ 19,000	TB6M発行▲38000償還15800
11/11 (水)	0	▲ 9,000	▲ 9,000				0	▲ 9,000	30Y発行▲9000
11/12 (木)	0	▲ 2,000	▲ 2,000	CP買入		6,000	6,000	4,000	源泉所得税揚げ 社会保障費等
11/13 (金)	▲ 1,000	▲ 24,000	▲ 25,000				0	▲ 25,000	5Y発行▲25000 交付税借入▲11000償還11000
週間合計	700	▲ 75,500	▲ 74,800	—	600	9,000	9,600	▲ 65,200	

11/9は日銀予想、11/10以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終日に向けた資金調達ニーズが活発化することが見込まれる。無担保コールO/N物加重平均レートは横ばいからやや高めでの推移を予想する。また、9日には「2020年11月積み期間に適用する基準比率」が発表される予定となっている。基準比率(現在20.5%)は引き下げられ、14.5~15.5%になると予想する。レボ市場は、引き続き資金調達ニーズは薄いことが予想され、GC T/Nは▲0.10%前後の出合いになることが予想される。短国市場は、9日に6M物、13日に3M物の入札が実施予定となっている。レート水準を含め、市場動向が注目される。また、11日に予定されている短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、10日にCP等買入オペが6,000億円で実施予定となっている。新規の発行が少ない中、按分レートがどの程度で決着するのか注目される。

主要なイベントは、12日に10月の米消費者物価指数、7-9月期の英GDP速報値、13日に7-9月期のユーロ圏GDP2次速報値などが挙げられる。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。